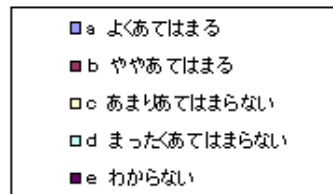


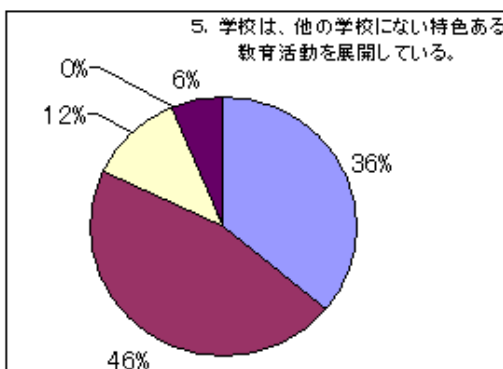
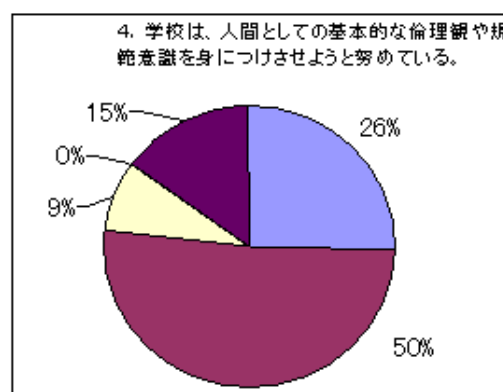
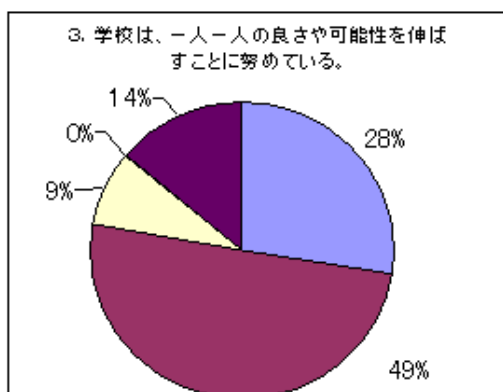
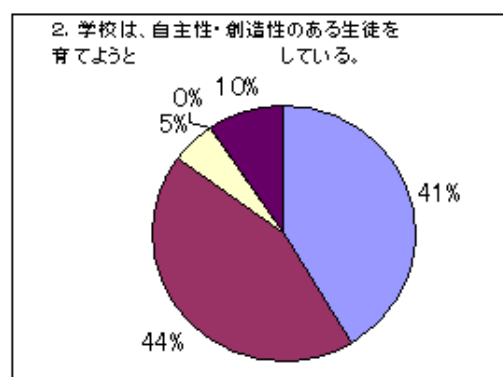
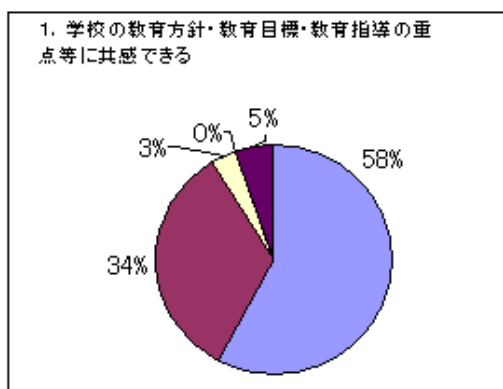
平成16年度 岐阜県立可児工業高等学校 外部評価結果

1年生保護者	36名	PTA役員さんと抽出で、各学級とも数名平均になるように依頼
2年生保護者	39名	
3年生保護者	42名	
学校評議員	5名	
計	122名	

94名の皆様からご回答いただきました。
(回答率76.2%)

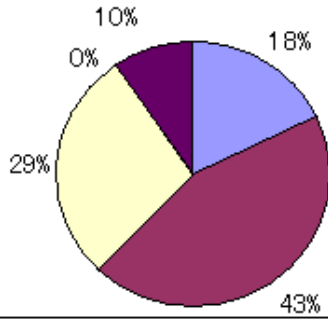


●教育方針

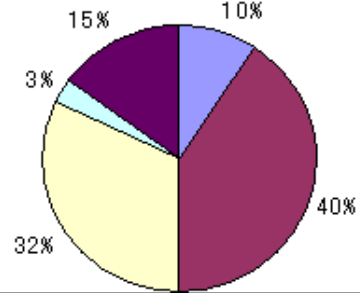


●家庭との連携

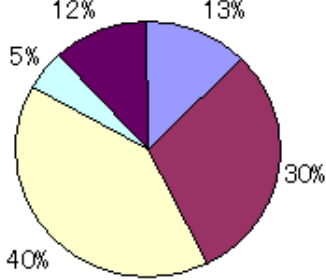
6. 学校の教育方針・教育目標・教育指導の重点等を保護者へわかりやすく伝えている。



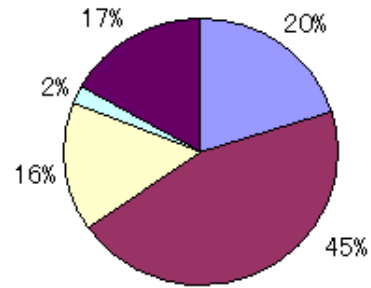
7. 学校は、自校の教育活動等に関する自校評価を保護者へわかりやすく伝えている。



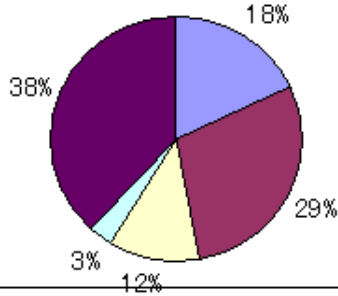
8. 学校は、子どもの様子などについて、保護者への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている。



9. 学校は、進路に関わる連絡や情報提供をきめ細かく行っている。

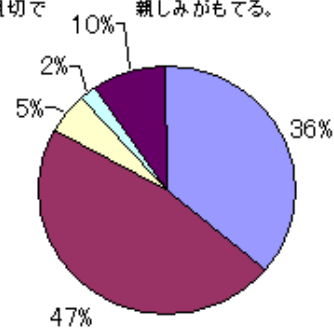


10. 学校は、保護者の悩みや相談に適切に対応してくれる。

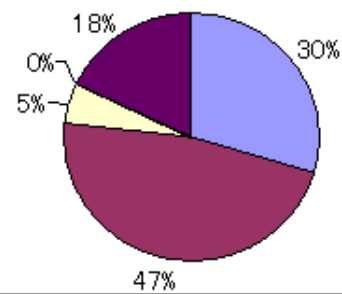


●教職員

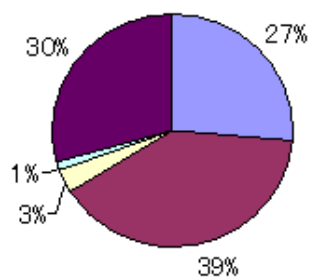
11. 学校の教職員は、礼儀正しく、親切で 親しみがもてる。



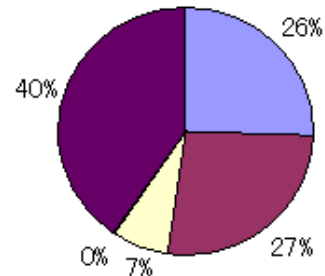
12. 学校の教師は、子どもたちの教育に熱心に取り組んでいる。



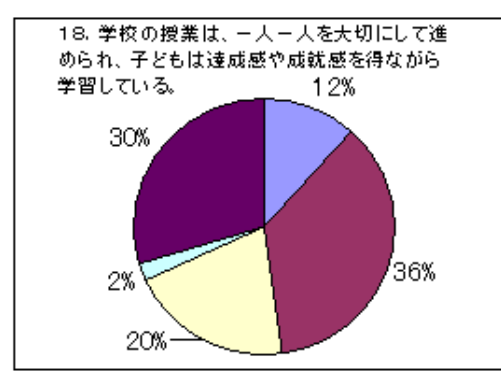
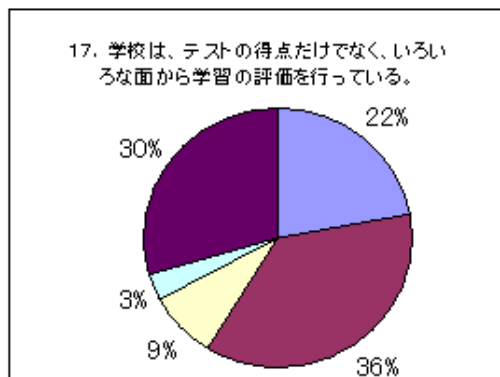
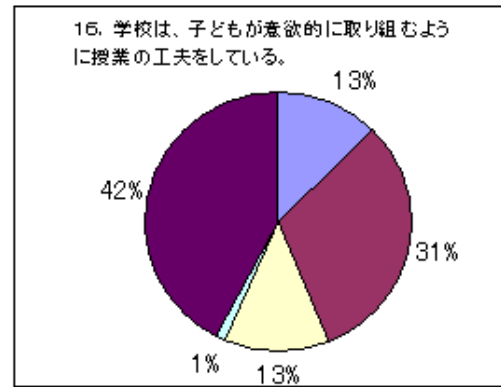
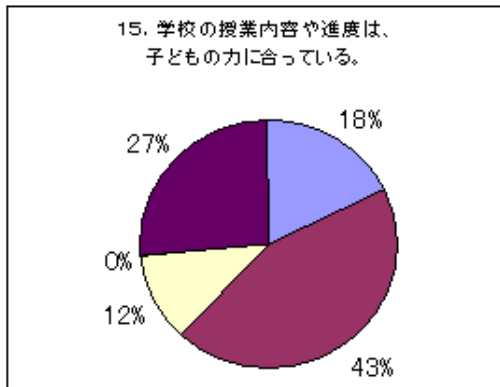
13. 学校の教師は、専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる。



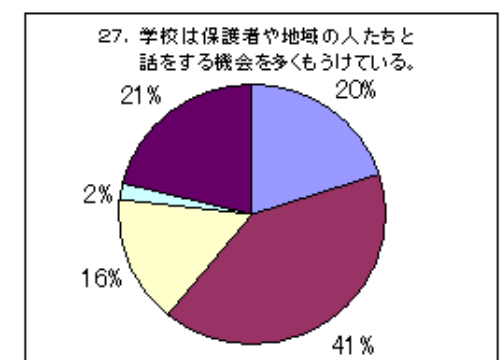
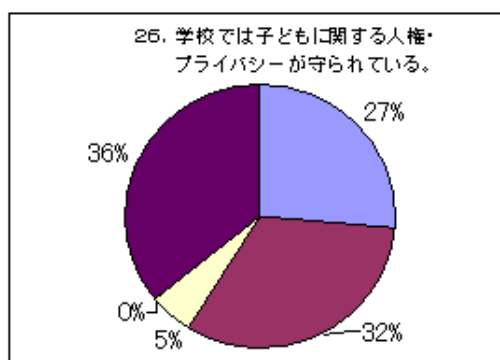
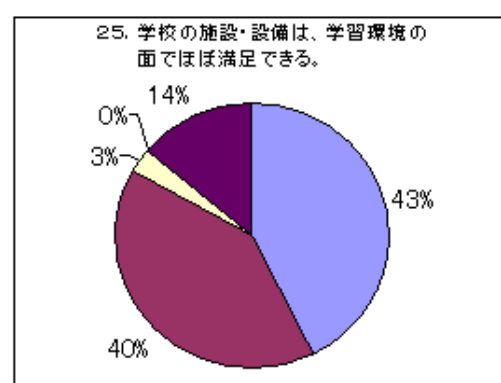
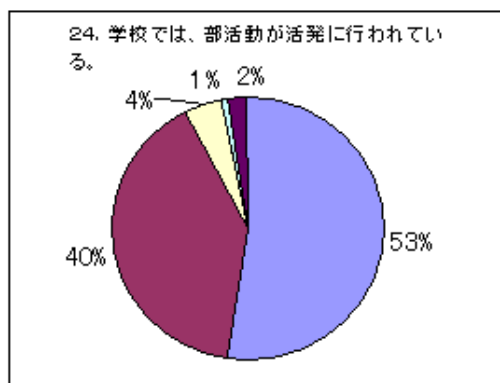
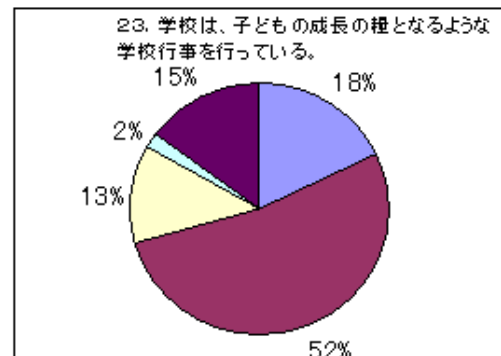
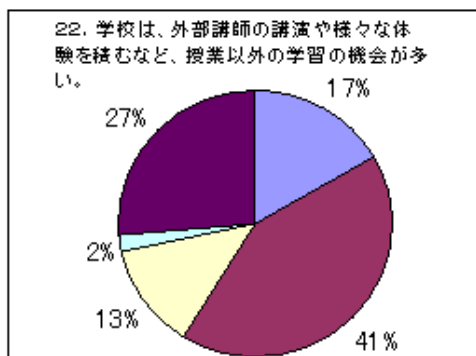
14. 学校の教師は、子どもが相談したときには、親切に応じてくれる。

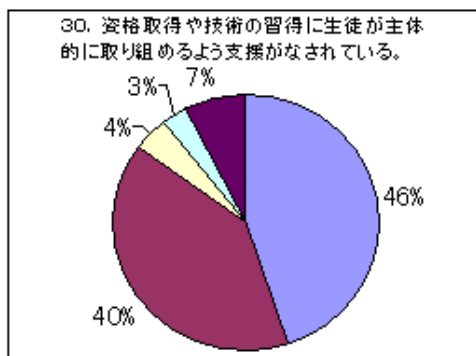
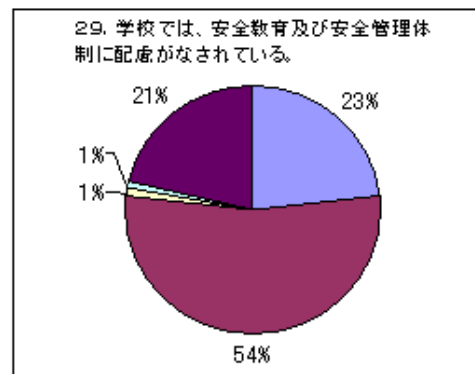
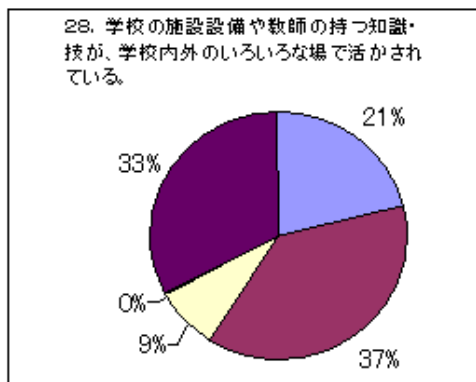


●授業



●学校行事・その他





外部評価結果の分析

● 共通項目

1 分析結果

全体を通して、多く肯定的な回答が得られた。「教育方針等への共感」、「教職員の態度」「部活動」「学習環境」「資格取得」などでの肯定的回答が多く、学校改革への取り組みが成果を上げ、地域や保護者の間に着実に理解されつつあることがわかる。しかし一方で「保護者への情報伝達」「保護者との連絡及び意思疎通」など家庭との連携の項目では否定的意見が3割から4割あった。教職員や生徒指導、授業など直接生徒に係わる分野では、保護者の意識や価値観、学校教育に対する期待の多様化もさることながら、情報伝達（言い換えれば、保護者の判断材料の提供）の弱さ不十分さが明確に読み取れる結果となった。

2 課題

学校からの情報公開の推進に加え、家庭・地域社会との人的、或いは情報の相互交流の機会を多くし、連携を一層充実させ、理解を深めるための実践が求められる。

3 対策

学校開放の推進に加え、従来からの学校行事（保護者懇談、地区懇談会など）について運営方法やテーマの設定を見直し、これらの機会が双方向の意思伝達の場となるよう改善する。さらに、各種通信、広報等などにおいて保護者参加による編集を試みるなど、学校の活動等についてよりよく理解が図られるよう進める。またHPを充実するなどITの活用も推進する。

● 学校独自項目

1 分析結果

学校の持つ資源（人とも）の開放や情報を求める思いが強く表れている。同時に、本校の安全に対する配慮や資格取得への支援が大きな理解を得ていると感じた。

2 課題

結果がわかりやすい教育活動の成果については着実に結実し評価を得つつある反面、指導体制や日々の取り組みについて周知徹底という面で不十分なことが指摘されている。

3 対策

日頃の教育活動において常に保護者や生徒、地域に対して説明責任を果たせるよう、行事や指導の一つ一つを計画的・組織的に取り組むと同時に、外部参加型の行事においてはより効果的な運営に心がけることと確実な情報伝達の方法・仕組みを工夫する。

各問に対する回答の状況をもう少し詳しく見みると、

● ; 1個が1項目を表示

項目	問数	年度	肯定的回答の項目数				否定的回答の項目数	
			80%以上	60%以上	50%以上	50%未満	20%以上	30%以上
教育方針	5	16	●	●●●●				
		15	●	●●●●				
家庭との連携	5	16	●●	●	●●	●●		●
		15		●●		●●●	●	●●
教職員	4	16	●	●●	●			
		15		●●	●●			
授業	4	16	●	●	●●	●		
		15			●●	●●	●	
生徒指導	3	16	●		●●			
		15			●	●●	●	
学校行事ほか	4	16	●●	●	●			
		15	●	●●		●		
学校独自項目	5	16	●	●●	●●			
		15		●●	●	●●	●	

共通項目(おもに昨年との比較を通して)

(1) 教育方針について

昨年度より肯定的回答「a よくあてはまる」は多くなっている。本校の教育方針等の理解が着実に深まっている様子が見えてくる。「特色ある教育活動の展開」「一人一人を大切に教育」についても増加しており、専門高校として相応の評価を得ている、本校の教育活動が保護者や地域に共感をもって受け入れられつつあるととらえられるが、まだ十分に満足できるものではなく、継続的な取り組みが求められる。

ただ、「倫理観や規範意識の確立」については「a よくあてはまる」は増加しているが、「b ややあてはまる」は減少しており、a + b でも微減している。そして、「わからない」という回答も昨年並みにあり、今後の克服課題としたい。

(2) 家庭との連携

昨年度から学年通信やPTA会報等の見直しをすすめ、学校と家庭、或いは保護者間の情報交換の媒体として活用を図るなど、取り組みを強化してきた。その成果を、a 評価（よくあてはまる）の確実な増加に見ることができている。反面、c 評価（あまりあてはまらない）も増えている。これらのことは、本校の努力の方向は正しいと解釈できるし、改善のその速度に不満を持つ保護者、言いかえると学校からの情報を心待ちにしている保護者がいかに多いかの表れであるにとらえたい。

また、「わからない」という評価の留保もまだまだ相当数あることに配慮する必要がある。今後とも様々な場面や手段を活用し、時宜を得た伝達を図り、理解度を高める必要がある。

(3) 教職員

「子どもの相談への対応」や「教育活動への取り組み」について、肯定的回答がわずかに減少した。反面、マネーや教科研究など、資質面で評価が前進している。どの項目も否定的意見は4～7%であるが、「わからない」が4割に達する項目があり、保護者が判断するための材料が渡っていないことがわかる。外に対してのアピールの仕方について、充実した取り組みが望まれる。

(4) 授業

概ね昨年と同様な回答であったが、「意欲的に取り組む授業の工夫」で肯定的回答がわずかだが後退している。授業改善に力をいれているところだが、ことは、本校教育の根幹に関わることであり、評価の問題と並行して全力で取り組んでいかなければならない。一方、「多面的な評価」については、昨年と比べ改善が見られた。昨年の診断結果を踏まえ、喫緊の課題として取り組んできた成果が表れたと考えられる。

しかし、「わからない」という評価留保数もどの項目にも依然として多い点に注目し、学校開放、情報公開を一層推進する必要がある。

(5) 生徒指導

全体としては肯定的回答が増加した。本校の生徒指導の方向が、保護者の求める方向と概ね一致していると考えられる。「分からない」という回答は昨年に比べ減少はしたものの、まだかなりの数にのぼり、要対応の部分である。

「生徒との対話の時間」及び「子どもの理解」についても否定的回答と「分からない」が、昨年度より減少はしているものの過半数を超えている。教員と保護者の対話不足、情報不足が大きく作用しているように思われる。課題であると同時に、今後も教育相談的視点に立って、多面的アプローチが出来るよう組織的な指導体制の確立を更に推進することが必要である。

(6) 学校行事その他

4項目すべてで肯定的回答（a・b）が増加し、否定的回答と「わからない」が減少した。「部活動」の評価は依然高水準であるし、「学習環境」については、一昨年に引き続きその整備が継続し進められ、肯定的評価が8割を超えた。

(7) 学校独自項目

1) 「人権・プライバシー」については、肯定的回答がやや増え、否定的回答と評価保留の割合が微減したものの、昨年と傾向は変わっていない。今後さらに学校・保護者両者間における研修や情報交換の機会を多く持ち、「安全で開かれた学校づくり」の推進に向けての体制づくり、条件整備を進めなければならない。

2) 「地域・保護者とのコミュニケーション」については、肯定的回答が6割に達し、否定的回答・「わからない」ともに減少した。地区懇談会やものづくりを通しての学校公開、文化祭時の公開討論会など、昨年度来の色々な取り組みが次第に効果をあらわしてきているものと考えられる。しかし、否定的回答はまだ約2割あり、取り組みの一層の充実を図る必要がある。

3) 「学校の人的・物的資源の活用」については、肯定が約6割と過半数を超えた。「わからない」も減少はしたが、依然として全回答の1/3あり、「開かれた学校づくり」において改善の余地をまだ多く残している。

4) 「安全管理体制」についても、8割弱の肯定的回答があり、相応の評価を得たものと思われる。が、生命に直接関わる事項として指導と体制の一層の充実を図っていく必要がある。

5) 「資格取得や技術習得」については86%の肯定的回答が得られ、学校での指導の体制が多くの保護者に認められたと解釈できる。